

NO.	中長期目標 (重点目標)	短期目標 (重点課題)	指標 (具体的な方策)	評価	保護者 アンケート	評価	生徒 アンケート	評価	取組の考察	次年度改善点
1	基礎学力を確実に身に付けさせる。	基礎・基本の定着及び学習意欲を喚起する学習指導の取組を充実する。	朝自習・総合的な学習の時間を活用して、漢字力の向上に取り組む。「漢漢チャレンジ」	3. 5	子どもは、宿題をきちんとするなど、家庭学習の習慣が身についている。	2. 8	宿題をきちんとするなど、家庭学習の習慣が身についている。	2. 9	1， 2 年生は学期に 1 回、3 年生は 1， 2 学期に「漢漢チャレンジ」を、全学年とも年間 6 週間「漢漢朝自習週間」を設けて、実施した。	どの学年も、充実した取組となった。また、学習意欲を一層喚起するため、「漢漢朝自習」「漢漢チャレンジ」を継続して実施する。
			毎週の月・水・金に国・数・英を中心に課題を出し、家庭学習の定着を図る。「ワンプリデー」	3. 2					どの学年も毎週の月・水・金の 3 日間、国語・数学・英語を「ワンプリデー」として実施できた。	「ワンプリデー」の継続的な実施とともに、プリントの内容を充実を図る。
			定期考査前や夏季休業中に質問教室を実施する。	2. 7					夏季休業中の質問教室は、全学年とも取組ができたが、考査前は 2 年生が中心の取組となった。	全学年が年間を通して、計画的に取組を行うことで、家庭学習への習慣につなげていく。
			チャイム席・学習規律の確立を図り、生徒が集中して学習に取り組める環境づくりに努める。	3. 2	子どもは、学校で落ち着いて学習に取り組んでいると感じる。	2. 9	授業中、話をしっかりと聞き、まじめに学習に取り組んでいる。	3. 2	チャイム着席は、全学年とも取組の成果が表れていた。学習規律の確立では課題が残った。	道具忘れや授業態度の面で一部に課題が残った。学習規律の一層の確立を図る必要がある。
			自習時間をなくし、授業時間を確保するとともに生徒が授業に興味・関心を持って積極的に取り組めるよう工夫・改善を行う。	3. 4	学校は、子どもの学力を高めるための工夫や努力をしている。	2. 8	授業は、工夫されていて分かりやすい。	3. 0	授業時間の確保はできたが、各教科の授業における工夫・改善に対し、保護者や生徒にあまり理解されていなかった。	授業に対する工夫・改善への取組が理解されるようガイダンス等を行い、生徒が興味・関心を持って積極的に取り組めるよう指導していく必要がある。
2	心の教育の充実を図る。	人権教育の充実を図る。	全学年、講師を招聘しての講演会を実施する。 ----- 人権教育学習の充実を図り、生徒対象の講演会を実施する。	2. 9	子どもは、相手の気持ちを考えた言葉づかいや行動ができています。	3. 0	相手の気持ちを考えた言葉遣いや態度ができています。	3. 2	全学年「携帯・ネットでのマナー」、2 年「人権教育公開授業」等、講師を招聘し、生徒の内面に訴えかける講話を実施することができた。	次年度も生徒の興味・関心や実態を考慮した上で、講師や話の内容を精選し、講演会を実施する。
		学校環境の整備を図る。	掃除学習の徹底、美化コンクールの充実を図る。	2. 9	学校は、施設や設備などの教育環境の整備に努めている。	3. 1	学校の施設を大切にし、清掃活動にも、しっかり取り組んでいる。	3. 4	全職員で清掃指導はできたが、2 学期予定していた美化コンクールを実施できなかった。	美化コンクールについては、年間 1 回は実施する。また、毎日の生活の中で、学校の施設を大切にするとともに、学校をきれいにしようとする取組を継続して指導する。
		豊かな人間性を育む食育に取り組む。	豊かな人間性を育む食育に取り組む。	3. 0					配膳・片付けや食事時のマナーについて全職員で確認し、指導した。	特に片付けや配膳室への返却マナーについては継続した指導が必要である。
			健康保持・増進と食習慣の定着を視点に、昼食指導や食に関する内容の放送、栄養掲示板の記入を行う。	3. 2					昼食指導や食に関する内容の放送、栄養掲示板の記入については、毎回行うことができた。特に食に関する放送については、放送部と連携して実施した。	食に関する指導としての効果を上げるため、放送部と連携しながら、昼食時間の放送を今後も継続して実施する。
		学校行事の見直し及び生徒と触れあう時間の確保を行う。	教育相談は 1・2 学期の 2 回、クラスマッチは各学年・年間 1 回実施する。また、長期的視野に立った部活動の活性化を行う。	3. 0					各学年とも年間 1 回のクラスマッチを実施できた。教育相談は年間 2 回予定通りに実施できた。	クラスマッチ、教育相談ともに充実した取組となった。行事を実施する際には教育的効果を考え、実施する必要がある。
		総合的な学習の時間における体験活動を充実する。	1 年生のふれあい合宿、2 年生の農泊体験学習、3 年生の修学旅行等の体験的な学習を充実する。	3. 7					1， 2 年生は 5 月に 3 年生は 6 月に予定通りに実施することができた。	2 年生については標準時数を若干上回っていたので、時間数を精選し、効果的に取り組んでいく必要がある。

3	生徒指導の徹底及び特別支援教育の充実を図る。	生徒の心をつかんだ生徒指導の推進と危機管理意識の徹底を図る。	ＱＵテストやいじめアンケートから、生徒の実態を把握するとともに、講師を招聘して職員研修会を実施し、有効な活用を図る。	3.0	子どもは、毎日楽しく安心して学校に通っている。	3.3	毎日楽しく安心して学校に通っている。	3.6	ＱＵテストやいじめアンケートを各学級で実施することで、学級経営のための有効な資料が得られ、日常の生活指導に活用できた。	ＱＵテストやいじめ等の問題に関する職員研修会を実施し、生徒理解を深めることで、さらなる有効な活用を図る。
			問題行動に対し、職員集団が一丸となり、組織的に対応できる体制を確立・推進する。	3.1				学校全体及び各学年で発生した問題行動に対し、全職員が一丸となり、組織的かつ計画的に対応できた。	問題行動に対し、全職員が一丸となり、組織的かつ計画的に対応したことが、早期解決につながった。今後、生徒理解を図ることで、積極的な生徒指導を充実する必要がある。	
		あいさつや言葉遣いを中心に基本的な生活習慣の定着を図る。	生徒指導部や生徒会生活委員会を通して、身なりの徹底を図る。また、ＰＴＡの挨拶運動や職員の声かけを通して、あいさつや適切な言葉遣いができるようにする。	3.0	子どもは、礼儀正しくあいさつでき、身だしなみも整っている。	3.1	礼儀正しくあいさつができ身だしなみも整っている。	3.5	学年集会やあいさつ運動、日ごろの声かけの中で、服装や頭髪の指導、あいさつの指導の効果は上がってきている。	進路指導との関わりの中で、１年次より３年間を見通した継続な指導も必要である。
		特別支援教育を充実する。	生徒一人一人の実態に応じた日常生活指導及び学習指導を行う。	3.2					全職員が生徒個人の特性に応じて、日常における生活指導や声かけ及び各教科等における学習指導を行った。	生徒とさまざまな場面でふれあう中で、実態の早期把握に努め、実態に応じた日常生活指導及び学習指導を行う。
4	保護者及び地域との一層の連携強化を図る。	保護者及び地域に開かれた学校を推進する。	学年や学級通信、ほけんだより、ＨＰの更新等の充実を図る。	3.2	学校からのプリントや通信などから、学校の様子が分かる。	2.9	学校からのプリントや通信などを家族にきちんと渡している。	3.2	学年通信、ほけんだより、ＨＰの更新等については、月１回以上の発行・更新を行った。	地域や家庭と連携を深めるためにも、充実した通信・ＨＰを発信し、情報を伝えていく必要がある。
			学校開放週間や授業参観の内容を充実するとともに地域への開放を推進する。また、小若山笠への職員及び生徒の積極的参加を図る。	3.3				今年度も１１月の学校開放週間には、５００名を超す多数の参加があった。小若山笠については、参加率が約３０％という現状であった。	日ごろの学校の取組・実態を理解してもらうためにも、各学年の行事や授業参観土曜日授業等を活用し、より充実した開放を推進する。	